

「ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会」最終報告書

- 目次と骨子案 -

第1部

第一編 u - J a p a n 構想の背景

第1章 目標達成目前のe - J a p a n戦略

1.1 e - J a p a n戦略の成果と課題

IT革命への取組みに対して出遅れたことへの危機感

2000年12月、IT基本法の制定

2001年1月、2005年までに世界最先端のIT国家となることを目的とした「e - J a p a n戦略」の策定

インフラ面を中心に目標は達成したが、デジタル・ディバイドが顕在化

ITの利活用が今後の課題

1.2 e - J a p a n戦略 の成果と課題

ITの利活用に重点を置き「元気・安心・感動・便利」社会の実現を目標

医療、食、生活、中小企業金融、知、就労・労働、行政サービスの7分野において、先導的取組みによるIT利活用を推進

新しいIT社会基盤整備の目標像として「ユビキタスネットワークの形成」を設定

「e - J a p a n重点計画-2004」でインフラ目標の再設定

第2章 ICTの豊かな可能性

2.1 国民生活を豊かにするICT

ICTがもたらした新しいサービスや商品

ICTによる高い経済効果

ICTが競争力や創造性の発揮をサポート

ICTが地域活性化を推進

企業経営におけるICT導入の効果を高めるには、組織改革や業務プロセスの改革が必要

ITからICTへ

2.2 ICTの技術動向

着実に進んでいるICT基盤技術の実用化・汎用化

先駆的なICT利活用方策の芽生え

ブロードバンドの普及、インターネット接続可能な携帯電話、情報家電等の分野で、我が国は国際競争力を有し、世界をリード

他方、ICTの高度化により、技術の流出・国内の空洞化等により、技術的優位が失われるのではないかと漠とした不安

2.3 ICTによる諸課題解決の可能性

2006年以降に到来する本格的な少子高齢化社会は、各分野で解決すべき課題が山積

本格的なICT利活用が諸課題のブレイクスルーとなることへの期待大

さらには、ICT利活用の定着プロセスを契機に我が国経済を活性化

2010年の次世代ICT社会の実現へ向けた中期ビジョンが必要に

第3章 時代の流れに沿った政策手法の変化

3.1 行政全般での新たな方向性

成長から成熟へ、官から民へ、中央から地方へ

産学官から産学官民へ、供給主導から需要主導へ

クローズからオープンへ

欧米依存から独自戦略へ

モノから情報・サービスへ

3.2 ICT政策の新たな方向性

独占から競争へ

インフラ整備からICT利活用重視へ

固定通信から移動通信へ、ナローバンドからブロードバンドへ

アナログからデジタルへ、プロからアマへ、モノからヒトへ

第二編 2010年のu-Japan

第4章 2010年に向けた新たな構想

4.1 ユビキタスネット社会とu-Japan政策

期待を集めるユビキタスネット社会

ユビキタスネット社会とは「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」簡単にネットワークに繋がる次世代のICT利活用環境

u-Japan政策の目的は、社会の隅々にまでICTを定着させ、諸課題の解決に寄与し、社会に効用をもたらすようにすること、さらにはICT利活用の定着プロセスを契機に我が国経済を活性化させること

4.2 フロントランナーとしての2010年の目標設定

2006年以降も世界最先端であり続ける必要性

キャッチアップとしての世界最先端IT国家達成から、世界最先端ICT国家のフロントランナーとして先導

総務省所管に係るネットワーク政策を中心とした新たな構想

技術革新の速さを考慮し、目標年次を2010年に設定

ネットワークインフラの多様化・高度化においては、もはや具体的手本なし

ICT産業の優位性の持続と国際貢献

自ら目標とする社会像を描き、それに向かうフロントランナーとしての役割

4.3 eからuへの進化

e-Japan戦略からさらに進化

インフラ・利活用から価値創造へ

1) e-Japan：社会を電子化するための基盤を形成

2) e-Japan：利活用拡大による社会の電子化を促進

3) u-Japan：草の根ICTによる価値創造

第5章 u-Japanの目指すべき社会

5.1 我が国が直面する具体的な課題とICT

生活者が思い浮かべる諸課題例とICTへの期待：

- 1) 生活・福祉分野（災害時の安全確保、食の安全・安心、高齢者に優しい住宅、コンテンツへの自由なアクセス、患者中心の医療サービス）
- 2) 教育・就労分野（生涯学習の普及、若年・中高年の社会参加、勤務形態の多様化、ホワイトカラーの協業支援）
- 3) 産業・行政分野（リサイクル・ゴミ処理の推進、乗客のイライラ解消、交通渋滞・事故の削減、ショッピングの効率化、行政手続きのオンライン化）

5.2 u-Japanの理念

基盤性に着目した理念 - 「ユビキタス」

「あらゆる人やモノが『結』びつく」ことを表す。

「人と人」「人とモノ」「モノとモノ」、さらには「コト」までが結ばれ、コミュニケーションがより重要に

ユビキタスネット社会が実現したことによる成果に着目した理念

生活者アンケートから導き出される成果の理念

「人に『優』しい心と心の触れ合い」を表す「ユニバーサル」

「利用者の視点が『融』け込む」ことを表す「ユーザ・オリエンテッド」

「個性ある活力が『湧』き上がる」ことを表す「ユニーク」

5.3 具体的ソリューションの抽出

有識者・産業界が思い描くソリューション例

- 1) 生活・福祉分野(災害時の安否確認、食品トレーサビリティ、生活サポート、ユビキタスコンテンツ流通、電子カルテネットワーク)
- 2) 教育・就労分野(ネット市民塾、転職・再就職等支援、店舗間遠隔対応、経営層コラボレーション支援)
- 3) 産業・行政分野(資源・廃棄物トレーサビリティ、公共交通情報ナビ、ネットワーク型運転支援、情報端末付きショッピング、行政手続き自動更新)

5.4 u-Japanの具体的シーン(生活面/企業利用面)

孫とおじいちゃん・おばあちゃん間のシームレスなコミュニケーション

農家での家事サポートと食品トレーサビリティ

障害者の歩行支援とITS

若者の嗜好充実と遠隔相談型ショッピング

第6章 u-JapanにおけるICT産業

6.1 ICT産業から見たu-Japanの意義・目的

u-Japanに向けてICT産業に期待される2つの役割

u-Japan実現による新技術と新ビジネスの好循環形成

u-Japanにおける「社会全体の最適化」の視点

6.2 u-Japanにおける今後のICT産業の方向性

ICT産業組織の変革のうねり

ICT産業の将来像

第三編 u - J a p a n 政策パッケージ

第7章 u - J a p a n 政策パッケージの概要

7.1 u - J a p a n 実現のための前提条件（3大要素）

社会の隅々にまでネットワークが浸透していること
産業界がサービスを持続的に提供できる環境づくり
ICTの「影」の部分に対する万全な対策
その他、技術の成熟と普及定着と利用者意識の向上

7.2 u - J a p a n 政策パッケージの構造

u - J a p a n 実現のための3大要素に対応する個別政策パッケージ：「ユビキタスネットワーク整備」、「ICT利活用の高度化」、「利用環境整備」
その他、横断的な政策パッケージ：「国際戦略」、「技術戦略」

7.3 u - J a p a n 政策の特徴

インフラ面：「超高速ネットワークインフラの整備」から「シームレスなユビキタスネットワークの整備」（ブロードバンドからユビキタスへ）
利活用面：「先導的7分野によるICT利活用促進」から「課題解決型のICT利活用基盤整備」（情報化促進から課題解決へ）
価値創造面：「インフラ」と「利活用」それぞれの高度化と「利用環境整備」の組み合わせにより「草の根ICTによる価値創造」を実現

第8章 ユビキタスネットワーク整備

有線・無線のシームレスなアクセス環境の整備

（電波開放戦略の着実な推進、固定・移動の融合（FMC）促進、通信・放送の連携・融合、IPインフラ高度化等）

ブロードバンド基盤の全国的整備

（ブロードバンドのディバイド解消、地域情報化の推進、デジタル放送への全国的な移行、競争政策の推進等）

実物系ネットワークとの融合促進

（電子タグの利活用推進、センサーネット・ネットワークロボットの開発、ユビキタス端末（脱PC化）の開発、ITS・GISの創造的活用等）

ネットワーク・コラボレーションの基盤整備

（ユビキタスプラットフォーム（認証、決済、課金等）の開発、異業種ネットワーク間の相互運用性確保、ネットワークの高信頼性確保、電子商取引時の商品コード等の標準化、ユビキタスネット社会全体のアーキテクチャ等）

第9章 ICT利活用の高度化

ICTによる先行的社会システム改革

(ICTを活用した社会・経営革新の啓発、物流システムの変革、レガシーシステムの改革、ICT利活用を促す制度改革等)

コンテンツの創造・流通・利用促進

(デジタルコンテンツの流通環境整備、アーカイブの構築・利活用推進、魅力あるコンテンツ創造、電子政府・電子自治体の高度化等)

ユニバーサルデザインの導入促進

(高度エージェント技術の開発、ユーザインターフェースの向上、アクセシビリティの確保、障害者のICT利活用支援体制の構築等)

ICT人材活用

(高度なICT人材の育成、リテラシー・教育改革、ICTベンチャーの創出支援、市民参加の促進等)

第10章 利用環境整備

ユビキタス社会に対する期待の一方で、未解決のまま残されている多くの不安や障害

「影」の部分についての理解を深め、課題を整理

1) 10の大分類

2) 100の個別分類

ICT安心安全2010戦略：有識者アンケートにより、優先20課題を10分野から抽出・明確化

1) 優先課題の考え方

2) 優先課題の抽出

3) その他のあらかじめ対処すべき重要な課題

ユビキタス憲章：ユビキタスネット社会の基本原則・共通認識を総括

1) 憲章の意義

2) 憲章の構成

- ・ 自由で多様な情報流通
- ・ 安心で安全な情報流通
- ・ 新たな社会基盤の構築

第11章 その他横断的な政策

「国際戦略」：国内にとどまらず、国際的な市場やネットワークを視野に入れた政策を推進(アジアを世界の情報拠点に)

「技術戦略」：必要となるICT分野の研究開発・標準化を戦略的・重点的に推進

第四編 u - J a p a n 政策実施のあり方

第 1 2 章 産学官民の役割分担

1 2 . 1 基本的な考え方

「官」から広義の「民」(産・学・民)へ
「産」・「学」・「官」・「民」の連携の必要性

1 2 . 2 「産」と「官」の役割分担のあり方

「産」と「官」の連携の必要性
「産」と「官」の役割分担の基本的な考え方
(「産」の新価値創造が u - J a p a n の原動力)
(「官」は基礎インフラの基盤整備と「産」へのインセンティブ付与)
階層(レイヤー)ごとに見た「産」の活動と「官」の果たすべき役割
(実利用層、論理ソリューション層、物理層に分けて、「官」の役割を検討)

1 2 . 3 役割分担の具体策

総務省自らが取り組むべき事項

総務省所管に係るネットワーク政策の着実な実施
I C T 産業が円滑に変革していくための環境整備
I C T 産業の構造変革を通じた社会システム全体の活性化

政府部内・自治体に働きかける事項

ポスト e - J a p a n 戦略の策定により、政府一丸として実施することの意思表示
I C T により社会全体が円滑に活性化していくための環境整備
地域住民のニーズに沿った地域情報化

「産」で取り組む事項

新技術と新ビジネスの好循環による新価値の創造
コアコンピタンスの明確化による「選択と集中」

「学」・「民」に働きかける事項

「民」は、ソリューションの創出に当たり、初期段階から参画し、意見の反映を)
「学」は応用分野に寄りになっている関心を、もう一度、基礎分野中心へ

国外に働きかける事項

世界全体でユビキタスネット社会を早期に実現し、果実が享受できるよう、
u - J a p a n のコンセプトを発信し、世界全体を先導
利用環境面での国際的な調和を早期に図るため、世界に先駆けてユビキタス
ネット憲章を提示

第 1 3 章 工程表と P D C A

工程表を策定して計画的に推進すべし
不断の見直しと評価が必要

第2部

基本政策WG提出

- 1 2010年に向けた生活者アンケート調査結果
- 2 ユビキタスネット社会に向けた先導的ソリューション例一覧

ICT産業WG提出

- 1 u-Japanに向けたICT産業政策の基本理念
- 2 u-Japan実現のためのICT産業戦略

利用環境WG提出

- 1 「影」の部分についてのアンケート調査結果
- 2 ユビキタスネット憲章(素案)
- 3 ユビキタスネット社会の「影」の課題に係る国際的政策動向